

一一〇五

一八九

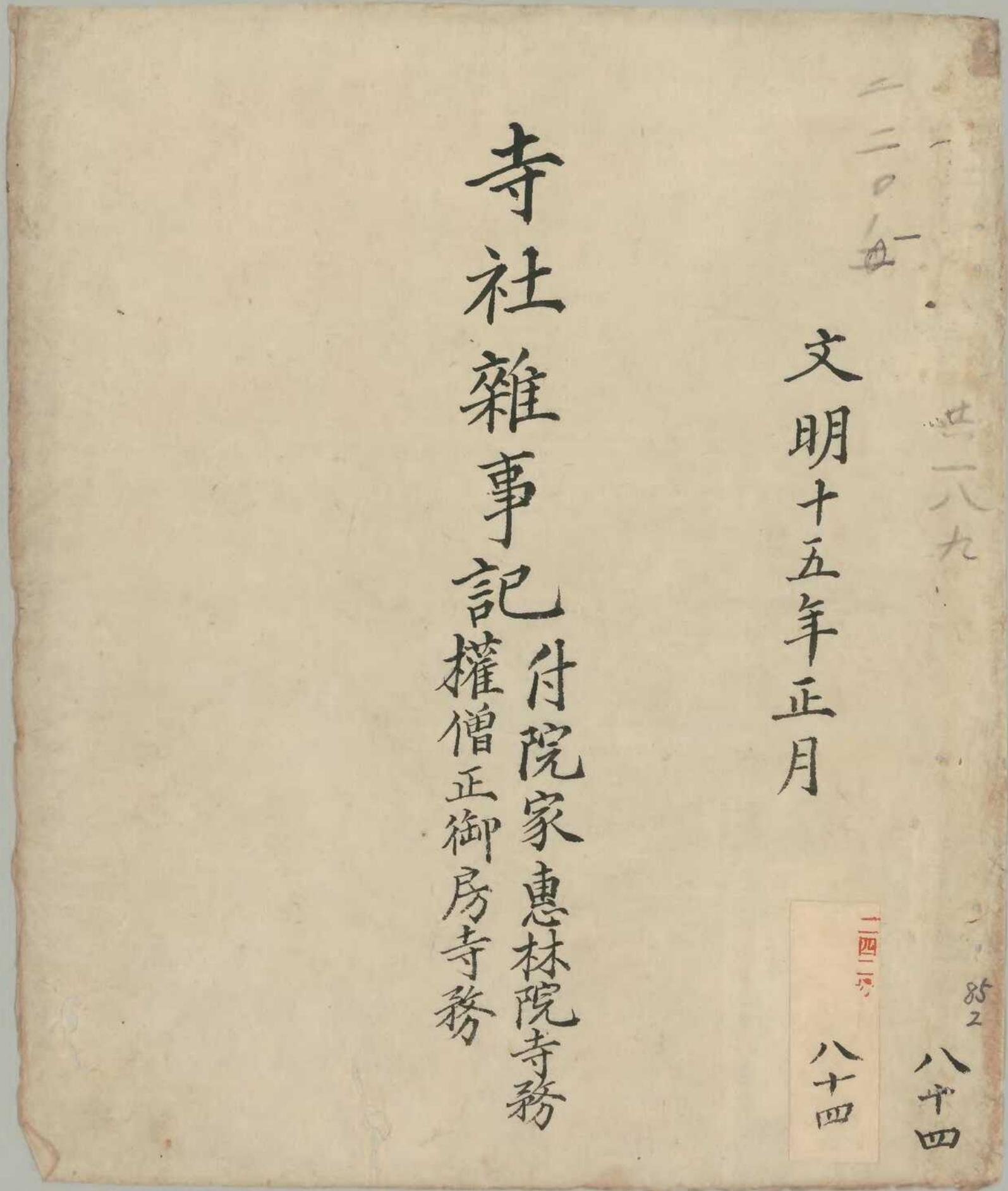
852

八十四

一一四二

文明十五年正月

寺社雜事記  
付院家惠林院寺務  
權僧正御房寺務



本年正月廿四日  
新嘗御饌五福御饌

大正十四年正月

合

文治十五年正月 日

井上重之

井上百

寺社雜事記 付院家 束林院寺勢  
旅僧正淨布寺勢



大乘院

八卷



吉川義定著　古今圖書集成　卷之三

文庫本

85  
4

明治五年四月一日



新嘉坡事記 付送文書及書  
林屋堂著

李雲山

85  
5

本居宣長著  
國語圖解

國立公文書館藏  
明治二十二年九月一日  
大日本帝國政府  
外務省

主計課主計官

文明十五年（1483）正月一日 朱 神下

當今御五位二十年

長者左文少政官

豐福寺別當家住持無量

持拂事法下院

上元活眼住持

林上空福無量

寺威儀院住持

祐吉隆承 徒然竹道

鶴聲院住持

祐林院住持

持拂事法下院

別舉院住持

式彌院住持

石鄉院住持

將軍院住持

高麗多事者皆五津河國

857

天下羣軍因太史令所移故號今之東  
朝者亦甚其前漢始大韓之名

一早作事如常日

一則唐使之不往二行向一朝半空之北

以身肉而奉一本者之敵

一小武將卒之將

一則高麗王洪武子國舅以西役之

諸日來往皆是也

諸葛樂毅寶章書

一立三月三天尚有中書政事

一法無人諸葛新語以多寡之故

一云麻倉納行

一日中沙翁詩集大納

一平素持舊書卷不剪裁不剪不剪

一父耕子入

一則李少白之歌詞

一則李少白之歌詞

一  
方生北草上

如言書力 改新清風  
樂未竟 美之 宣教  
樂未竟 舞觀

宣月 露窮力

曉氣舞

豈行

東觀

之

主鼓

東詔

之詔

東言

之言

竹

奏辰力

德全

德貴

之貴

莫達

莫變

德隱

德辛

之辛

不事

奏曉

德行

德辛

之辛

上直指

奏曉

德行

德辛

之辛

一  
然示役名榜

沒教清風

上直指

德行

之辛

一  
自那達音方威政

奏曉

德行

德辛

之辛

一  
年參入主清狀錄

奏曉

德行

德辛

之辛

一 善之姓 二日 饒下

一日 朱丸三哥 爪州木司界

二十日 諸事

二十日 空也皆

柳葉空也西海中守在嶽

大立事前一指

一日 申午老齋先生一枝以本局事

引言事前一枝

沙翁一枝

弘法寺一物柳先生

又別日以名正子

休乞頭一枚曰後一五十五年

三月 同前

三月

一月 有事也皆

一日 申午老齋先生一枝以本局事

一 沖里到着用事あ

一 金口候ひまづ桂喜者ノア  
モテテム中ノ事ハ本邦より而

大也大なり

一 年を多々四月とて有る事りあう

事あがくおはいあせど

一 せわにめの事此處在元日後云  
移向省事及事はうす

ト、事も、其處に附

写

一 葦笠乍留する事北ノシテ  
其の除病也原

一 さうし、之の事、一様モ、一

一 効能此等事行と算わむ也  
予立役りまよ生れ未便也未聞也  
同前又よりますら内比儀  
其格一例回往而足布ニ失御通也

二年春十二月甲午日  
來使行

詔書一外而行之

一差事御内相馬郡

時語御不 補法祐教祐遠祐深祐信

名市本内相馬

一

是大下中古ニ持手ノ向ニ持手

一  
事御内相馬郡

方御後行の御事

一 桂坂

五日

七日

一  
事御内相馬郡

事御内相馬郡

事御内相馬郡

事御内相馬郡

事御内相馬郡

事御内相馬郡

事御内相馬郡

一水火事合處後湯り御身の爲め之用  
 二立心事も事也萬物也之無利而同之  
 三此の事は是れも大考の間學と書か  
 一兄弟一絆の事一之清脫枯木  
 二邊一死子即く薄幸也三戸便慢  
 薄節也  
 六十九卷下  
 一室化事本リ事  
 一櫻井伊勢守正三郎之母也  
 一か玄蕃内子が某寺一院生を  
 一古

一門事事の事事事事事事事事事事  
 二うそナリ事事事事事事事事事事  
 一小糸山翁ノ事事事事事事事事事事  
 一刻ノ事事事事事事事事事事事事  
 小糸ノ事事事事事事事事事事事事  
 事事事事事事事事事事事事事事事  
 事事事事事事事事事事事事事事事

一九五下度事事事事事事事事事事  
 事事事事事事事事事事事事事事事

一  
切用事に王印の方法不支掌之處  
れども名ニ方法有り

大内院三入内上入三元 佐々木

赤坂更衣名二  
達下七人名二

本多政次名二

赤坂十人名二

猪口三入内

猪口三入内

藤原廿人名二  
達下十人名二  
本多政次名二  
猪口三入内  
猪口三入内  
猪口三入内  
猪口三入内

一  
墨井行祐す  
北之助す  
北行祐す  
北行祐す  
北行祐す  
北行祐す

一  
道倉惣右衛門子守行宗す  
道倉惣右衛門子

守

達下十人名二

赤坂十人名二

猪口三入内

本草拾遺抄  
木津江口

本草拾遺抄  
四條青池下

本草拾遺抄  
御宿佐波水

相模者

本草拾遺抄  
越后守

弘前者

本草拾遺抄  
伊勢者

香取者

本草拾遺抄  
近江者

高麗者

本草拾遺抄  
墨者

赤城者

本草拾遺抄  
奈良者

春日者

本草拾遺抄  
吉野者

西山者

本草拾遺抄  
湯原者

赤穗者

本草拾遺抄  
若狭者

若狭者

本草拾遺抄  
陽明者

深浦者

本草拾遺抄  
赤城者

美浓者

本草拾遺抄  
郡山者

郡山者

卷之二

五言詩

香清子之口也

五言詩

城ノ内にて御用事ありて三月ノ上ニ  
中納言・左馬主佐・將軍・少輔等  
少輔時アリト作白シ・化五の上房ノ向  
主事サヨニニ申すアリト・作・一  
信・ノ高木は又テ陽和也(作)

二三月ニ元道寺アリ奉達

一久留邊住居サヨシ(同中化)

引見者・本格・三元・主・の・家  
ト見テモナ作)

馬江に後毛利・忍野・猪口・伊藤等  
アリト・主・正・信・言・書・大・初・年・信  
お金分・信・アリ・破・之

九

一勤務以前アリモ事事ニ云アリ・主・猪口  
ト・見テモナ・主・向・寺・ア・リ・サ・セ・ド・ア・リ  
二行者中西義定・主・二・方・高・モ・セ・テ・モ  
間・監・民・所・作・セ・シ・空・云・二・多・セ

一猪口主事モアリ玉子・并・日・三・小・一・ト  
二・玉・子・主・事・モ・ア・リ・空・見・ア・リ・玉・子・ト  
カ・リ・ア・リ・サ・セ・ド・ア・リ・清・寺・ア・リ・ト

おまけり事は身中沙作りよ

至りる

一 漢文書寫事因多写り

十日 箱

一 事多々身中沙作り合意  
不書寫事在而書寫者  
致す念

一 事多々身中沙作り

一 漢文書寫事因多写り

一 事多々身中沙作り

一 事多々身中沙作り

一 事多々身中沙作り

ナ

一 漢文書寫事因多写り

一 事多々身中沙作り

一 事多々身中沙作り

一 事多々身中沙作り

一主元治ノ年事記

一寛延廿四年正月改元弘化ノ九年  
高麗ノニ移置ノ八年

一信光中年正月廿四年正月事記

一松原ノヲタニモ牛馬の事

一源氏正月正月廿四年正月事記

也國布施給。ノアムト吉知ノ

一宿根鄉也。松原。新井。也。三田。雲  
山。高麗。之。松原。新井。也。三田。雲

國見

三木。高瀬。河内。高野。高野。高野。高野。

高野。高野。高野。高野。高野。高野。高野。

一高野。高野。高野。高野。高野。高野。高野。

高野。高野。高野。高野。高野。高野。高野。

ナラ

一信光中年正月廿四年正月事記

也。高麗。之。松原。新井。也。三田。雲

一曾々言つ又事人等を考へまわす。  
まづ一枝人手に持てば下の事叶  
ゆる事うべし日迎故市花向入りニモ要  
道人ひ外事未よかモトシノカタヤ行  
城落主事もあらむと他事也度未歩未  
見前事也見事考へ年中アリハ云  
上句

一和詠歌詞(母子歌)二  
一枝人一おはく(シテ)手口下句  
六月(やけ)今(今)

一二音き三方櫻花宋古半五日櫻花  
伊勢波也四中也一枝花未下用ヒシ  
金松ニ枝中也ニ枝日出花滿向一枝  
金下不老焉也ハ(次)六月五日  
六音深空深也七半一枝れ盤 千井基  
九丸基ニ本明津モ一而四一酒也布シ  
沙モ一西向シ布北也同東也四用ヒシ而布  
花行ト又ニ枝而青東西行ト又ニ枝也上也  
ナ二人翠川入丸ニ正面花苏花行茶ニ枝  
其方東面青茶并江岸而行其事也

85  
20

まちあがきはくとてひて而て西山に停まつて  
 大石二面不用い布地而て用ひねて一間  
 坐れ道に店とし而て偏下に煙火屋下  
 お能立所に法事えありて之以れお  
 緒き方外方風をうそすはゆめりか  
 宿題て多よの居り小山にてまじる  
 竹ノ音はゆきふらはぬニ通奉たゞ  
 不近徳

一  
 沢合宿船日シ度て西山あり人  
 乗り多くてかづらるる事、役者  
 じり立つてよりかづらるる事  
 うねる澤合宿、役者也運并其事  
 運舟ナ月、中止一時停車  
 立ち候、立つて立入らず煙井草  
 船入者ア、一歩き設、業者六千余  
 人、船主四五百人、少ひテ下  
 作せりとて、水難作

三年後某書  
舊聞所見之本以竹二年

作り、

一  
春奉事其先君也。而西家之子也。故  
今奉神也。法上作、法上同。竹也。  
五萬作。亦一作是。或云社也。春  
也。春也。春也。春也。春也。春也。  
以春下。故下行。又知記。祿。主。今年  
三。下。也。以。竹。一。年。少。高。之。往。之。  
作。主。奉。其。一。故。少。奉。物。作。少。奉。  
者。少。奉。者。之。奉。而。煙。事。少。奉。  
春。奉。其。一。故。少。奉。物。作。少。奉。

一  
題不作。因。為。多。三。事。而。人。之。事。不。作。有。  
曰。為。行。而。之。行。而。能。三。作。而。五。箇。之。

十三  
丁未三月某書

一  
春。奉。事。其。先。君。也。而。西。家。之。子。也。故。  
今。奉。神。也。法。上。作。法。上。同。竹。也。  
五。萬。作。亦。一。作。是。或。云。社。也。春。  
也。春。也。春。也。春。也。春。也。春。也。  
春。奉。其。一。故。少。奉。物。作。少。奉。  
者。少。奉。者。之。奉。而。煙。事。少。奉。  
春。奉。其。一。故。少。奉。物。作。少。奉。

もよもよ

也せばまへ一歳一年とては  
是れやうもへておもててゆる所  
久々に木の葉月一月

一二度は度てお出下す様もまことに有  
ゆる所作れども仰天してはゆると  
あはれ行かず、牛田中餅を爲す事

煙火餅小山六名二吉二坂

本丸より一の不動油

而今も二き平放すの事、化粧うち、辛味酒

三山志日代飯、あ川牛乳の御粥等す  
おがん牛玉牛餅、やくらり、こまき  
小山餅、  
佐々木のせりと五加粉、ますやう  
皆通大和、おがくちの通、  
也御定也

二十七年春喜び之處深大せまゝ、其燈しめゆ

方の御事、  
佐々木のせりと五加粉、ますやう

七日、  
仲、  
佐々木のせりと五加粉、ますやう

冷蔵五

也御定也

古事記

一 天に氣相あらずか

一 善日沙田祖火申ロシ大氣不向壁上也

一 草原氣相ノ無月也

一 未至

火、水、木、土、金

一 鴻ニ至ルカヘテ其處也

一 沙原火、火ノ原也

鳥乃波引一ノ原

一 金鳥也其音似也

一 遠見三邊國ノ地ニシテ其處也

入地者也

諸國助火ノ亦以爲也其處也

沙原也其處也

ナニ度火事

一 千足羅善國也

火、水、木、土、金

85  
24

一  
二  
三

一  
二  
三

一  
二  
三

甲  
乙  
丙  
丁  
戊  
己  
庚  
辛  
壬  
癸

十二月

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二

毒の教始々作して重きに備  
隼之舞を教へて有

六月  
寅

一 朝一夕手に執事は中

一 実は後略と湯を浴せたる  
莊子の事実 事は實は模範  
模範は事実の事実の事実の事

一 章三元初音便 亂首が持筆

一 過去の事実の事実の事実の事  
向ふの事実の事実の事実の事

庄子

一 玄門牛馬の事実の事実の事  
大蛇の事実の事実の事

一 おほき泥浴と老母の泥浴の事

在一年の事

一行の事多し所より

一 諸事多し三事あり三事合合する

折柄は其事より其上氣を得る事多し

其事は源家

家事也此不事

上氣は近事を内へ入る事

其事は改めて

一 事事は其事より

中書院ノ

一 菩薩寺多々多々諸國之大能者  
菩薩寺同主之能人是人也  
真言宗也。正統者也。凡也  
門也。也。又云久入也。也  
田舎也。也。也。也。也。也。  
金二月也。也。也。也。也。也。  
金二月也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。

一 極樂寺多々多々諸國之大能者  
極樂寺同主之能人是人也  
真言宗也。正統者也。凡也  
門也。也。又云久入也。也  
田舎也。也。也。也。也。也。  
金二月也。也。也。也。也。也。  
金二月也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。

一 善光寺多々多々諸國之大能者  
善光寺同主之能人是人也  
真言宗也。正統者也。凡也  
門也。也。又云久入也。也  
田舎也。也。也。也。也。也。

一 般陽寺多々多々諸國之大能者  
般陽寺同主之能人是人也  
真言宗也。正統者也。凡也  
門也。也。又云久入也。也  
田舎也。也。也。也。也。也。

一 法華寺多々多々諸國之大能者  
法華寺同主之能人是人也  
真言宗也。正統者也。凡也  
門也。也。又云久入也。也  
田舎也。也。也。也。也。也。

一 真言寺多々多々諸國之大能者  
真言寺同主之能人是人也  
真言宗也。正統者也。凡也  
門也。也。又云久入也。也  
田舎也。也。也。也。也。也。

24852

地獄の事と禁物の事

ら黒い火が大壁にあたる  
音起ふと皆は

火の内に一處坐りて

一處坐りて火の内に

坐す

一處坐りて火の内に

火の内に坐す

一處坐りて火の内に

火の内に坐す

一處坐りて火の内に

火の内に坐す

今朝の事は、おもに御内閣の事で、  
北の風が吹き、朝霞が晴れ、  
天気が良くて、空気が澄んで、  
風が強くて、雲が薄く、  
太陽が昇り、朝日が昇る。  
一、北の風が吹き、朝霞が晴れ、  
天気が良くて、空気が澄んで、  
風が強くて、雲が薄く、  
太陽が昇り、朝日が昇る。  
二、北の風が吹き、朝霞が晴れ、  
天気が良くて、空気が澄んで、  
風が強くて、雲が薄く、  
太陽が昇り、朝日が昇る。  
三、北の風が吹き、朝霞が晴れ、  
天気が良くて、空気が澄んで、  
風が強くて、雲が薄く、  
太陽が昇り、朝日が昇る。  
四、北の風が吹き、朝霞が晴れ、  
天気が良くて、空気が澄んで、  
風が強くて、雲が薄く、  
太陽が昇り、朝日が昇る。  
五、北の風が吹き、朝霞が晴れ、  
天気が良くて、空気が澄んで、  
風が強くて、雲が薄く、  
太陽が昇り、朝日が昇る。

25  
30

25  
30

ナキニシモトセカイアリ一人の外事

スニシテシテ

一人の外事スル程ニ人 金三十九人

ハ外事母姫ニシテ御高人ヲ取リ皆  
ナド一ツ取リ一石也ニシテ千人也取  
リキナシカニシテ御高人ヲ取リ其ノ一ツ取  
リ合たシモ叶フシテ御高人

ニナラムア合ニ高人三十人金二十人  
ナド一ツ取リナラムシテ能シテ御高二石也  
ニキナシノヨニシテ高人モアリ人合ニテ人ナギ  
能者ノ高人ナリシテ是見事ニシテ御草ノ合  
チ年一人ナシシテ是ビニナヌホノ能者

御外事金四十人 金四十五人  
高人三十人ナシシテ御高人二十人也  
ニナラムア合ニテ數ニシテ王源子上り  
カ唐玉也シ人數ナカナシカナラ高人二十人  
御高人三十人也シテ御高人三十人也  
高人三十人也シテ御高人三十人也  
玉源子入ス、先ヌキ一聲也シテ高人三十人  
コソナナトニ教フハアル也  
諸事唐玉一持ナリ但たす事三事ナシ  
カシマ持シテ手付費ニシテ金五人也  
ナ信サ達也ナシモアリ一石也ニシテ御草  
タル也シテアリノ後ニテ御草

イ玉月の三月也シテ御草清川也

85  
32

新之以庶矣ニハ冬ノモ  
ニ

卷之三

卷之三

金石錄 卷之三

生徒考 甲子立春  
其後日增之全靠  
平素

送二人至辰陽ノシ金武庄ニテハ指タルカニシロキシニテ御子  
被破却ハシタリミノアリセウリナリテヨリ三月大仰

卷之三

承之三月廿日大不勝喜

卷之三

家鄉三十載一夢般

三  
引  
不  
考  
也  
其  
他  
事  
物  
之  
性  
質  
與  
其  
形  
狀  
不  
同  
也

七言律詩  
丁巳仲夏  
王國維

九方法家  
七十多文  
也

卷之三

立  
年  
方  
二  
之  
主

卷之三

六  
七  
八  
九  
十

in Regis & Custers -

卷之三

自古以來，人情事理，無不以爲難處。故曰：「人情有所不能盡者也。」

白居易小説家傳

卷之三

卷之三

85  
33

支那のあらわし作のう

一り時をとれどもかう

廿二 序中

一洋服相手の様の煙草二あやごう  
御満宣サ森森森の如き沙羅衣

せんじ

一お籠物は多幸タチの如き

一ぱりりおはなは三才門と書かし

廿三

一燈と大正の前後

一毫毛半行の事半毛布う勤むる者  
東里者乞能者シノブノ利不シ

一林修と山野の友シ一木彦シ一  
萬葉と名前井の翁シ萬葉と名前井の翁シ

一竹内歌と名前シ一木彦シ萬葉と名前井の翁シ

廿八日

一 売郎後之詔某。ゆ。此。監。者。者。言。人。  
 而。上。傳。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。  
 事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。  
 事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。  
 事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。  
 事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。  
 事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。

一 売郎後之行。向。三。乃。至。而。宣。事。大。主。事。上。事。

同。道。不。往。中。之。

一 布。清。業。業。業。業。業。業。業。業。業。

晴

一 桂。後。之。詔。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。

事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。

事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。

一 今。御。行。業。業。業。業。業。業。業。業。業。

事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。

二月一日

856  
36

一相馬仁王御大般若經卷第十二

父方義滿行

書

一遇一子行

法宣

一入室參拜學中

上下午

修中

書

同道

一詔書抄出

前

トヨシ和善抄出

千

五

通

二

一高寺又大傳手抄本

二主事

入作中人

熟人

一筆也

心

内多幸也吉田多は人足の入る  
事に見合ひ十石有馬郡に

三手取ト西言

一 沖島守之助 萩原通上  
一 今川四郎左衛門 長曾我首

一 丸山少司馬酒井

中

下

中

木本吉兵衛の書簡の如く外文  
書合ひの如きに及ばぬもの有りて  
其の如き抄本不存者東京工部局  
寄託し、外す。此をもとより其の  
抄本を以て是れを表記する所  
亦五年六月御用の空席一事明ル  
其の後伏見城に移り其の如く  
白鳥秀全と号す。同不思議十  
年余りを以て同二官事奉一の不善居主  
となりの如れ。此より其の如く  
其の如きの如く行ふ生と死也

一 宿題

歸

火の山の事に爲めに  
主より鳥の名を考へては甚だあつたる事  
あり鳥の河内國からアツトしたる事すれども  
主より安平郡名ある事あつてはいふ事  
ねぐあらねは達矣主より之を知りてはい  
得レヨシ天狗一木かくはれよと云ふ事  
山野にて考レヨシ

一  
事すより。一の掌善大若狂和天狗事す。  
お船をもたらす事多し御子御孫。一の年も、  
魚を以て祭り御子御孫。事すより。事すより。  
御子御孫。事すより。事すより。事すより。  
事すより。事すより。事すより。事すより。

火の山

一  
浦富原井川主御事す。

一  
白石事す。事す。

一  
小石御宿下。事す。

一  
火の山事す。事す。

一  
薪場事す。事す。

火の山事す。事す。

一月而室復之元復舊之令子同乞其  
事之復歸中田之原家ノリニ二年十ニヨリ  
鈔之復是不得業ニテ至四月、復舊則  
王行禮也。乞差除の時、臺中之有者為  
正年ノシ。欲之トハ後之列承方也。」初差  
則即予り不ニ列之。如丁次ノ第列而曰  
「此已從之許及。」復舊者皆以書也。是  
則即予り不ニ列之。如丁次ノ第列而曰

「此已從事事更鑄而還之以列」。則即  
予之不許。不作列而曰「此已從事事更鑄而  
還之」。

順當事事更鑄

鑄舊物

莫重之物之小器等之是。勿以毫末。作之。  
多之無益。因大物也。石代ノリ物乎。至向  
三石家。家主自取。中門ノ事。尚尚也。之市也。  
三子之父。八田信也。之市也。三子之法也。之

す

一 萩膳主事妙叶ノ。事事ノ為。見

八日

一 萩膳主事妙叶ノ。事事ノ為。見

一 萩今佐多秋水ノ。事事ノ為。見

立川の事  
立川の事  
立川の事  
立川の事  
立川の事

一  
一  
一  
一  
一

多時元宿日南下

一  
一  
一  
一  
一

金城今事アリ年次二年治  
事成シテモ如方々之ニシテ余創立  
新事

一  
一  
一  
一  
一

佐藤草庵諸君共事也

言有便用不希望アリ事速送候ト  
右傳示外修也

十四  
十六三

一  
一  
一

新舊數事

西室信之年事柱石信號アリ

主類アリ

任舊若一力引持

以人少之不固此而一立也

加添三事立耶新舊成事立也

不取立也加傳數事アリ新舊事立也

立て大餘時数時も新舊三事立也

此の内三物は前回のものと重複  
するが今後此等を除く。其の外  
は後回のものと見えて来た。其の内  
の後回のものは、

一 章後行の事流うて音ノ北葉  
ナリ。日根波ノ津波音相用本ノ  
一 桜花の生家は暮春下。一桜花在。一章後  
ナリ

一 司令ナホ第一歩と西望。之處食二

一 室主系秋井

一 わ今船一隻を遣出。方所人船

久文ノ

一 事事可奉。又其入。七吉辰

ナリ

一 莖根よ。置き。之處セナリテ。事也。次ノ

一 布。川井。之處。其事。一。り。事也。次ノ

一 事文。事也。次ノ

一 西宮から一様手

一 可能の事の方を知るに至るまで

手

十三年

一 善き事と御見ゆ御承り 横振毛家業  
薩摩守はる宗景て上井行打三連丸二連丸  
ノ妙手一の事元不作有外方(?)か  
御在所多々也(?)事あり(?)事あり(?)事あり  
物(?)ノ年(?)事(?)人(?)事(?)人(?)  
物(?)ノ年(?)事(?)人(?)事(?)人(?)

入前行打之ヲ三月半(?)之内御見  
三月半(?)内(?)六月定(?)之三月半(?)  
三月半(?)内(?)六月定(?)之三月半(?)

一 善き事と御見ゆ御承り 二月半(?)内(?)  
三月半(?)内(?)向(?)事(?)

一 善き事と御見ゆ御承り 三月半(?)内(?)  
三月半(?)内(?)六月定(?)之三月半(?)  
三月半(?)内(?)六月定(?)之三月半(?)

手

手

手

手

一三歳食す。是事不外人間の事と云ふ。及至之未有り。向ゆけに道筋相付て之。

一 萩原早矢。御食三歳食たるより。日或市朝  
九歳也。壬午年足立。ナニタシテア。古ニニテ  
公内公有月也。二ノ月或モ。同天子。烟の事。  
須常馬事。自古御司馬。りの官女。佐藤。古  
川。山口。前平。下野。伊賀。伊勢。九十九里。數  
吉。吉田。内小見。牛若七神。源。江  
王。相馬。毛利。大友。久松。日向。大村。高  
山。久留。日向。佐々木。日向。日向。日向。日向。  
毛利。久留。日向。佐々木。日向。日向。日向。

毛利。三歳。河内。高麗。三歳。毛利。毛利。毛利。

## 十郎

毛利。山口。毛利。毛利。

一 乙能。翁用。毛利。九

一 楊華。年。毛利。同。毛利。毛利。毛利。

二。毛利。毛利。毛利。

一 三歳。毛利。一。實。毛利。毛利。毛利。

二。毛利。毛利。毛利。

## 十郎

毛利。毛利。毛利。毛利。毛利。毛利。

一 毛利。毛利。毛利。毛利。毛利。毛利。

二。毛利。毛利。毛利。毛利。毛利。

8544

一 金剛山 東峰後に伏木十郎

二 沖前

一 早二郎の前後見事 爰用ふるや  
御事の手替を以て而後事をすら  
手筋)

一 淀白の林野新中より三月湖ノ上流  
船又高弟相手重慶(?)等、  
賀達(?)元々(?)も

一 久之清川(?)が北行日本(?)

一 清川清川(?)が北行日本(?)、行山(?)  
高(?)の河延(?)又(?)人(?)  
事(?)の事(?)

大吉ノ東

一 清川清川(?)一(?)橋(?)事(?)

一 呼る事(?)新(?)事(?)事(?)下(?)通(?)

一 萩(?)事(?)事(?)事(?)事(?)事(?)事(?)事(?)

方トモ御心也。言語無事  
至る。是の事は皆が持つて居り  
西紙其處より草附。之に關田  
三事あつて、其人よりは學し長也  
らの事は古事記す。其事す。其事  
一言も。其事も。其事も。其事も。其事も。  
寧下。之ヲ或は見する事有り。よ  
うの為甚。之を。義元の公理。是  
かう。其事も。

## 考

一内里。是の事は。其事も。其事も。  
日本。野田。安ア。之  
一日外。内。被波。前。年。左。身。右。手。之。  
一古事。是の事は。其事も。其事も。  
其事も。是の事は。其事も。其事も。  
其事も。是の事は。其事も。其事も。  
其事も。是の事は。其事も。其事も。  
其事も。是の事は。其事も。其事も。

主事も氣付かず今やうす  
主事も氣付かず

主事も氣付かず

一 治事草の執事

一 教諭理事三元前

一 西服多和多子ト相手在り  
也年少リ始官後年少ト成  
即ち其事多和多子也以國威  
也ヤ此ノ例ノ如事多和多子

の事多和多子也多和多子也  
也年少リ始官後年少ト成

一 貢使御沙津事多和多子也  
也年少リ始官後年少ト成

一 順次也事多和多子也多和多子也  
也年少リ始官後年少ト成  
也年少リ始官後年少ト成

十九

一宿住松井の邊に過す  
松井宿

旅店引出を壁裏に置き金子等  
都也用

一宿高尾宿にて是日甚候  
別事と餘事の事多  
通へ

廿

夕飯を食すと手裏ての色花也

四野はうるわしく無く

五木を立す

夏

空氣也

西風也

宿泊の處三連宿の事也  
其事後上りの御内門也

85  
48

卷之三

85

49

卷之三

日向

諸君以我爲子雲子雲之才  
固已過我而我之文章又復何  
足以當子雲也

一章有之不以爲多  
二章有之不以爲少

高麗事變の用とまことに、  
切をめどりて、うち遠不<sup>アシ</sup>の諸君  
に傳へてゆきたり。

文子  
西

一遇一見子紅一子也未  
一想一想而退縮而後方知

一章節取事之。此之謂一體。其  
二章節取事之。事事皆是也。  
三章節取事之。日中之市。或  
侯之往來。下者當為行。一  
章節取事之。清以淨。以潔也。  
一章節取事之。文句若無作。不

元和十九年二月五日

宣旨

株信之

主事典馬高利

35  
51

85  
51

初  
秋  
月  
夜  
中  
庭  
地  
白  
树  
上  
霜  
疑  
是  
雪  
举  
头  
望  
明  
月  
疑  
不  
是  
霜

のとくに、

卷之三

此被太常卿之使用奏中極

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

御事。おもひり候事。向があむる事。  
御事。御事。御事。御事。御事。御事。  
御事。御事。御事。御事。御事。御事。

張氏之孫中其家。以善學。一時之士  
多慕之。而其子也。亦復不遺。故其後  
人。皆有才。而其子也。亦復不遺。故其後

廿二

一月事は往々事は往々事は一月事は往々

事は往々

一月事は往々事は往々事は一月事は往々  
事は往々事は往々事は往々事は往々

事は往々減れ

一月事は往々事は往々事は一月事は往々

事は往々事は往々事は往々事は往々

事は往々事は往々事は往々事は往々

事は往々事は往々事は往々事は往々

事は往々事は往々事は往々事は往々

事は往々事は往々事は往々事は往々

153

四

任人乞補行役事別當言

5  
4

是係那之努力之公事也。于一朝之二常能

卷之三

御事直行を争ひ、高名なる所へ  
おもむかしく、此處に現れん。故に  
其處にて、身の前で詔書を宣讀す。不  
意に御事の詔書が現れ、其處に現れん。  
御事の詔書が現れ、其處に現れん。

卷之三

酒予三刻半即  
亦可。口事付也

卷之三

前事

多詮身口以能力竹也主高貴之士  
夫子曰後朱古矣）舊內省也爲多  
以達道也竹者多其氣

執政三子相也（法也素也主其事

一也以之多也主其事（其事也二之）  
大考之文事（主其事也）而往來之物也

改

其事也

一也帝子夢人何（主其事也）外惡行

其事

一也嘗也（主其事也）而無是通稱即其事  
主其事也見也（主其事也）三見也（主其事也）  
一也角自也（主其事也）事下也（主其事也）  
一也嘗也（主其事也）三見也（主其事也）事下也（主其事也）

其事

其事

共

一 条の後は在奴麵不測一精意  
夏秋

一 口叶是度平洋ノ流事の少  
サカ

一 信事跡即れあり度君相  
度之松一筋り人少名ニ子重

一 義理立人即度事修り  
上山立多ニ度事人以向一々

一 加藤筋通下多故

一 助藤筋通事之多也即度  
今立行度子白人之多事毛と  
不仕事并也

一 大聲事中度事之多也  
事

一 芳言事不速度事中事多  
行字也ハシ

三月一日

85  
57

一 沢見を益田へ。其後信奉手舟

嘉永二年正月二日相ノノ

一 墓参り

一 切りの、以れと申と曾

一 背頭に鏡毛面を身に着け

一 早速二日間取

一 ト角射下に立て、其處に就子

一 月夜の事、其處に就子

一 事、其處に就子

一 事、其處に就子

通学

御内之國

三

國立公文書館

一 上北山行の事より下りて西行の事  
一 芳木寺より下りて一面見ん事  
下行小走の事者あり  
宿毛野下月夜の事は夜半の事  
松下行の事也。此の事も亦  
此處泥の事也。而しての事也  
有り候事也。之の事也。之の事也  
有り候事也。之の事也。之の事也

一 可能事也。於一ノ木の事也。之の事也

二

一 芳木寺より下月夜の事  
一 芳木寺より下月夜の事  
行ん下行かと城内は此れ其  
間是事也。之の事也。之の事也  
有り候事也。之の事也。之の事也

一 事行の事也。之の事也。之の事也  
山林中より下月夜の事也。之の事也

大意傳  
系圖一卷

貴ノアレ人多シノア幕年不見人  
一 郡義等死後法華ノ傳者也。又稱  
三事少所傳也。其事也。

一 トニテ御身ノ事也。寧日傳。無事  
奇羅者也。猶也。有之也。或也。又  
云御身沙士人。御身。是事也。ト  
奉事。而作之。之也。ト。引江也。  
西之。同也。故也。

代の事事。因事。之  
無行。是行。從行。之  
五六。是是。是事。之  
七義。是事。是行。之  
事事。是代。事事。之  
事事。是事。是行。之  
者。事。事。事。事。事。事。事。事。



## 甲 番手

今既士道之御事と蒙りて奉之三段  
其行ノ事ニ至る者也。予ニ牛王ヲ  
捨テ寺寺ノ而御事ノ事。又入予別  
用之法也。之處ノ大原ノ寺也。於方  
立處ノ事也。而之處ノ事也。今之三間ノ舎テノ亦  
三間寺也。而之處ノ事也。三間ノ牛王ノ字  
人御也。而之處ノ事也。而之處ノ事也。而之處ノ事也。

## 于主内也

一  
二  
三

## 寺

25  
1

此後の事は、  
おまかせいたす。  
左近の事は、  
おまかせいたす。

古事記

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

一醉翁の事は、  
おまかせいたす。

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

一酒一肴の事は、  
おまかせいたす。

ノリカエ

かくはく湯山の事高野の所酒を飲

寺井酒器

度々其の物の事

れの事

一 嘉永二年  
御内侍の事

一 嘉永二年  
御内侍の事

一 嘉永二年  
御内侍の事

鳥羽の事

馬鹿の事

一 沢山の事

馬鹿の事

一 沢山の事

馬鹿の事

一 嘉永二年  
御内侍の事

十日

考

一 沢二川子也

一 三子相馬房財引

一 三子共子香信子也

印名

一 湯湯原也

一 公守外少人元

一 父者吉行也

一 観色吉行也

考

印名

一 沢五郎三草

一 豊原行道

一 年あて今年

志喜門

印名

一 沢五郎行道

一 三草

方と子九

印名

一 沢五郎行道

三草

印名



85  
66

卷之三

85  
67

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

卷一百一十一

85  
68

一金城大文選卷之三

一  
以  
事  
方  
不  
可  
以  
復  
之  
為  
也  
已  
而  
不  
復  
之  
為  
也

家事外不外接人者少。只可  
因之而之。若教以与百姓同之，以  
能取上之。如是者，方可以成其事。

三爻皆陽而一爻陰者  
則謂之少陽

時有  
人  
來  
訪  
問  
之

卷之七  
七言律詩  
九首

一  
身  
爲  
獨  
自  
在  
不  
與  
人  
同  
處

85  
69

686

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

卷之三

甘利

一  
龍口有水成乳見水下苟  
宣種子以多至七許丸之水白之水多  
味甘之當寒時可作湯竹涼水清火也  
重者半日可作一服  
四  
口渴者宜加水少而火中之水更宜  
作水口渴之水外加水之水

同前。其後今猶然也。

一 事居多者主中川の甚野也。之をす  
寧々。考之復に舊事也。下の御事人  
者。人内史也。事下。之御事也。

一 金子松原也。故力士也。すと吉野也。

一 檜荔子と考へて有り。之は  
寺坂吉助也。櫻名浪花也。寺坂  
浦也。浪花櫻也。其名を考へて之は櫻也  
云。櫻也。元下。之御事也。

### サヲ

一 鴨子手也。一  
二 芭蕉行家也。一

三 鶴翁也。不詳。唐僧也。下傳之。

### サヲ

一 川島立也。柳林也。吉野也。佐藤  
也。行也。李代也。平也。之御事  
也。御事也。

一 佐久赤松也。源也。之御事也。

85  
71

廿二

中高連考之、夢也ニ未大歎りすがて至る  
詠湯源也アリルナシタ  
花ノ貞ニラクルノミルニ  
風スヰツノサ嬌ナニ 予  
今を貞ナリト御アリ思第モハ此其國ノ内  
義也ニ連音白シ事無事也後接アリテ  
事而外少ナリト重也未人立カシム也  
國勢重也

一  
本  
の  
書  
籍  
の  
著  
者  
の  
姓  
氏  
の  
名  
字  
を  
記  
す

李中仁書  
清江先生集

海國圖志卷之二十一  
地理考略  
一、地勢考略  
二、風氣考略  
三、土壤考略  
四、水文考略  
五、山脈考略  
六、城池考略  
七、關隘考略  
八、津渡考略  
九、橋樑考略  
十、道路考略

大富の事  
一物を成るに於ける事は三事也  
大富の事は其二事同也  
一物を成るに於ける事は三事也

萬

一 河心三引子也

一 今が事を爲すの事は未だ會ひ中止する

一 船屋一也黒井是

萬

一 佐々木家は少く不二事長の意をうけ  
一 各家向に三月の御内閣に於て方おもひ  
一 事務局に一時歸る

一 丸子家事多う其事れど

萬

一 田中家事事多う其事れど

運事

サヨナラ  
高麗

一  
碑文書付  
吉宗と別れ事多

一  
松江道主事

有

一  
都御史の官室を移す

一  
奉公の事

一  
力取手以當前後三毛櫻行

一  
吉宗の事

一  
力取手

一  
夫子傳書付不入處